



1月の児童の様子から



低・中学年グループ 「協力福笑い」

お正月遊びの一つである福笑い。ひばりでは『協力』をめあてにペアで取り組みました。目隠しをしている人にどうしたら分かりやすく伝えられるか…ということミニひばり劇場を通して考えてから取り組むと、顔のパーツを渡すところから「はい、口だよ。」と手渡しをしてあげる姿が見られました。なかなかうまく伝わらないとき、「そうじゃないよ。」と思わず相手の手を取って動かそうとする場面も見られましたが、取り組む中で、相手の動かし方を見ながらより伝わりやすい言葉を見付けたり、「ちょっと」「もうちょっと」「もっと」など、動かしてほしい程度によって言葉掛けを工夫したりする様子も見られるようになりました。目隠しをしている子も、見えなくて不安な中、指示をよく聞いてパーツを動かし、「これでいい?」と確認するなどして取り組んでいました。目隠しを取ったとき、「おー!なかなかいいね!」など、互いに笑顔で喜ぶ姿が見られました。今後も実践を通して、友達との『協力』を学ぶ学習を行っていきます。



高学年グループ 「ボッチャ」(相談・協力)

パラリンピック競技の一つである「ボッチャ」に取り組むことを通して、相談・協力の学習を行いました。在籍学級で経験したことがあり知っているという子も、知らないという子も、公式ルールをベースにしたやり方や“ひばり版ルール”を知ると、早くも「やりたい!」と意欲満々な様子でした。始める前と、全員が一球ずつ投げること短い相談タイムを取りました。初めは意見をあまり言わなかった子も、回を重ねるごとに「どうする?」「~はどうか?」などと自分から意見を言う姿が見られるようになりました。また、相談の内容もどんどん具体的になっていき、夢中で話し合ううちに相談タイム終了になってしまった…という場面も。勝ち負けがある活動だったので、負けが続いて「もうだめだ…」とやる気を無くしかける子もいましたが、チームの友達や対戦相手に励ましの言葉を掛けられると、次の相談タイムには諦めずに作戦を立てる様子が見られました。また、どのグループでもうまくいかなかったときなどに相手を責めるような言葉が出ることは全く無く、反対に励ましや労いの言葉を掛ける姿が見られたことが素晴らしかったです。今後の学習でも、「今、必要な協力は何か」を考えさせ、実践を積み重ねながら学べるようにしていきます。

ひばり学習会の感想より …

1月13日(金)に開催した「ひばり学習会」には、保護者の方をはじめ、在籍学級の先生方、他校の先生など多くの方々のご参加をいただきありがとうございました。講師の菊田史子先生には、『学級や家庭でできる“読み書き”への配慮の仕方』などをテーマに、大変貴重なお話を聞かせていただきました。

ここに、参加してくださった方から寄せられたご感想を一部抜粋という形で載せさせていただきます。

- *息子さんとの実体験のお話を聞くことができ、とても分かりやすく勉強になりました。困っていることや生きづらさを理解し、一人一人に合った合理的配慮がとても大切だと改めて感じました。
- *もっと早くにききたかったなあと思いつつ聞いていました。でも、中学に入る前に聞いてよかったです。
- *子どもの意思を尊重し、一緒に進路を模索したお話や、学校や相談機関と連携を取り、新しい学習環境の道を切り拓いたお話を伺い、とても刺激を受けました。また、中学・高校で読み書きに配慮が必要となるなら、小学校のうちから ICT 教育に慣れておくことも必要なんだと感じました。本日伺ったお話を今後の子育てに活かしていきたいと思います。

☆この他にもたくさんのご感想をお寄せいただきました。ありがとうございました。